

留学だより No. 10

アメリカ合衆国ミシガン州に留学していた 15 期石塚です。帰国して数日が経ち、留学していた日々を思い出しながら過ごしています。最終号となる今回の留学だよりでは、前回 No. 9 から帰国するまであった出来事をお伝えするとともに、10 か月の留学全体を振り返って感じたことなどをお伝えしていきます。

まず、私は春のスポーツとしてテニスを選びました。アメリカの学校ではスポーツが秋、冬、春の季節ごとに分かれており、それぞれの季節でできるスポーツの種類も異なります。春のスポーツは 3 月中旬ごろにトライアウトと呼ばれるチームでの練習への参加を踏まえた後、正式にチームメンバーとして入ることができます。友達の誘いがあり、何となく参加したのがきっかけでした。もともとは陸上競技をしてみたいと思っていましたが、今までに経験したことがないスポーツに挑戦するいい機会だと感じ、テニスに参加することにしました。初めはルールがわからないどころか、ラケットの使い方もわからず、上手くプレイすることができませんでした。しかし、毎日 2 時間ほどあった練習を重ねることで、徐々に自分の中で上達したと感じる場面が多くなっていきました。試合は様々な学校のチームと行いましたが、週 2 日ほど試合日がありました。通常の試合日には「私が所属している学校」vs「他校 1 校」というような形で試合を行いました。始めたばかりのころはなかなかポイントがとれなかったのですが、練習の積み重ねと共にポイントも取れるようになっていきました。また、季節の終わりごろにはトーナメント戦があり、10 校ほどが集まって試合を行いました。1 戦目に当たった試合相手がとても強かったため、私は 1 戦目で敗退となってしまいました。しかし、テニスを楽しむことができたので、挑戦してよかったと感じています。

また、マーチングバンドで春のコンサートがありました。このコンサートでは一般の方の前で 5 曲ほど演奏しましたが、そのうちの 1 曲は曲全体が私のソロというもので、とても貴重な体験ができました。他のバンドのメンバーの演奏をバックにソロの演奏をして、とても緊張しました。緊張のせいでピッチが上がり、練習の頃よりもうまく演奏することはできなかったものの、演奏後、多くの方から褒めていただきました。ホストファミリー、友達、友だちの保護者などいろいろな方に声をかけていただきましたが、特に、ある高齢の女性に声をかけていただいたことが印象に残っています。素敵な笑顔でとても上手だったと褒めていただき、音楽がもたらす人とのつながりに感謝した瞬間でした。



私はアメリカでは高校 1 年生相当の学年に 10 か月間所属していましたが、留学生ということで高校 3 年生と一緒に卒業式に参加しました。Cap and Gown と呼ばれる卒業ローブを身にまとい、学校のフットボールのフィールド上に設置された椅子に座り、2 時間ほど式典が続き

ました。はじめは校長先生や成績の良かった上位2名の生徒からのスピーチがあった後、それぞれ名前を呼ばれ、舞台上に上がります。式典の最後には帽子についているタッスルと呼ばれる飾り物を右から左に動かすという時間がありました。友達に聞いたところ、アメリカの伝統的なものだそうです。留学生ということで卒業証書はもらわなかったものの、日本とは形式の異なる卒業式に参加できて、興味深かったです。

ホストファミリーとは最後の一週間はできるだけ一緒に過ごすようにしていました。この10か月にあった楽しかったことなどを話していました。ホストファミリーの元を去る際にはハグを交わしながら、ありがとうと涙ながらに伝えたことを覚えています。その後、バスに乗って次世代の帰国前研修を受けるためにシカゴに向かいました。次世代の友達に会うことができたものの、6時間ほどバスに乗ったため、とても疲れしました。シカゴで2泊した後、JALで12時間以上かけて日本に帰ってきました。



この10か月を振り返ると、辛いことも楽しかったこともありました。文化の違いや、他の家族の家に泊まる際にぶつかる障壁、また友達を1から作るということなど、様々な困難がありました。それがあったからこそ、その障壁を乗り越えたという喜びは自分の中では大きかったです。友達からよくこの10か月で何が楽しかったのかと聞かれたのですが、私は友達やホストファミリーと他愛のない話をしている時間が一番楽しかったと答えていました。文化の違いを共有したり、新しい考え方を教えてもらったりという時間が自分にとってはとても楽しかったです。4か月ほど前にあったオンライン留学報告会で、下級生に留学を奨めるかという質問があり、その報告会の時には、「まだわからない」と答えてしまいました。今でも全員にとって留学はいいのかと聞かれたら「良い」と言い切ることはできません。しかし、私は日本にいたら挑戦することのなかった活動や文化の違いを乗り越えた経験を通し、人とのつながりの大切さに気づき、自分を見つめることで自分について知ることができました。また、それと共に、日本に対して誇りを持つことができました。多文化を知り、異なる価値観を持つ人と交流したことで、先人が築いてきた日本独特の文化、歴史が世界的に見てどのくらい貴重なのか知ることができました。部活動など日本でしかできなかった活動もありますが、自分にとっては全く異なる環境で10か月間過ごすことができた体験から、自分に自信を持つことができるようになったと感じています。

これが「留学だより」最終号となります。最後になりますが、留学に行くことを応援してくださった先生方、友だち、家族に、ここで感謝を申し上げます。ありがとうございました。また、最後まで私の拙い留学だよりを読んでくださった方々、本当にありがとうございました。私の経験が少しでも皆様のご参考になれば幸いです。